

事例研究報告

小学部低学年児童における 要求言語を自発的に言うための指導

児童・生徒の実態

- ・ 小学部児童、知的障がい
- ・ 発達年齢 2歳6か月
- ・ イラストや写真カードで提示した全日スケジュールを見て、教員に見守られながら活動することができる。
- ・ 困ったときは、「アレ？」と言ったり、教員を見つめたりすることで援助要求を伝える。
- ・ 語尾など一音ずつの発語や復唱が出てきた。身振りや指差しなどと、「ア、テ」などの発声で伝える。
- ・ 平仮名の清音をほとんど読むことができる。

保護者の願い

- ・ことばでコミュニケーションが取れるようになってほしい。

教員の願い

- ・ことばでやりとりする機会を増やしたい。
- 単語で要求を伝えることができるようになってほしい。

アドバイザーからの助言

- ・ 名詞の語彙の受容と表出の実態を把握する。
- ・ 音声模倣がどれくらいできるか実態を把握する。
- ・ 「かして」と自発できるか確認する。



- ・ AI-PACの教材「名詞リスト」を活用し、「身の回りのもの」と「初級」の名詞について実態把握を行った。
- ・ 「かして」と自発できるか確認し、1文字ずつの音声模倣で「か」「し」「て」と言うことができた。

実態把握

名詞リスト（身の周りのもの）

食事	受容	タクト	リビング・洗面所	受容	タクト	玄関	受容	タクト
はし	+		でんわ	+		かさ	+	
スプーン	+		とけい	+		くつ	+	
フォーク	+		いす	+				
			つくえ	‘+-’				
			テレビ	+				
			ごみばこ	+				
			はぶらし	+				
			コップ	+				
			たおる	‘+-’				

衣類	受容	タクト	おもちゃ	受容	タクト
パンツ	‘+-’		はさみ	+	
ズボン	+		えんぴつ	+	
おむつ	+		クレヨン	+	
くつした	‘+-’		えほん	‘+-’	

名詞リスト（身の周り）の記録における「タクト」は、教員の音声模倣に応じて得られた発語の記録。

名詞リスト（初級）

動物	受容	タクト	とり	受容	タクト	虫	受容	タクト
いぬ	+		カラス	+		あり	+	
ねこ	+	こ	はと	-		ちょうちょ	+	+
うさぎ	+	ぎ	すずめ	-		はち	+	
うし	-	し	ひよこ	+				
うま	+	ま	あひる	+				
きりん	+		にわとり	+				
きつね	+							
くま	+							
コアラ	-	ら						
ごりら	+	さ						
しまうま	+	ま						
ぞう	+	ま						
さる	+							
ライオン	+							
トラ	-	ら						
ぶた	+	た						
ねずみ	+	み						

名詞リスト（初級）の記録における「タクト」は、教員の音声模倣に応じて得られた発語の記録。

名詞リスト（初級）

水の中の生き物	受容	タクト	くだもの	受容	タクト	やさい	受容	タクト
かえる	+		りんご	+		にんじん	+	にい
かに	+		ばなな	+	なな	ピーマン	+	め
かめ	+		もも	+	もも	きゃべつ	+	
さかな	+		みかん	‘+-’		トマト	+	ぼ
ぺんぎん	+		いちご	+		たまねぎ	+	
いか	+		さくらんぼ	-	も	きゅうり	+	
			ぶどう	+	ど	なす	-	な
						かぼちゃ	+	

日用品	受容	タクト	楽器	受容	タクト	おもちゃ	受容	タクト
かばん	+		ピアノ	+		ボール	+	る
ハンカチ	-		たいこ	+		つみき	+	き
ティッシュ	+		ラッパ	+		人形	+	
ふとん	+					ふうせん	+	
まくら	+					本	-	
かぎ	-							
せっけん	-							
お皿	+							
ドア	+							

名詞リスト（初級）

食べ物	受容	タクト	乗り物	受容	タクト	衣類	受容	タクト
アイス	+		くるま	+		シャツ	+	
あめ	+	め	ひこうき	+		スカート	+	
ケーキ	+		でんしゃ	+		てぶくろ	+	
プリン	+	み	ふね	+		うわぎ	+	
水	+	み?	じてんしゃ	+		ながぐつ	+	
お茶	+		消防車	+		パジャマ	+	
ジュース	+		救急車	+		ぼうし	+	
牛乳	+	にゅうにゅ	パトカー	+				
おにぎり	+		バス	+	ば			
うどん	+	どん	新幹線	+				
ごはん	+							
カレー	+							
みそしる	+							
パン	+							
たまご	+							

実態把握後のアドバイザーからの助言

- ・要求言語から伸ばすことが有効。
- ・色々な場面で使える言葉を教えていくことが大切。
→本児が言いやすく、使えそうな言葉は何か？
- ・言葉をまずは1つに決めて取り組むことがよい。
- ・手の届かない場所におもちゃを並べておく、かたはめで足りないピースを作る等1日のうちに何度も要求する機会を設定する。
- ・音声プロンプトはフェーディングしにくいいため、イラストと文字のある発語プロンプトのカードを作成する。



- おもちゃ等が欲しいときに「ちょうだい」と言うことができる。
- 対面課題においてパズルのピースが足りないときに「ちょうだい」と言うことができる。

の2点を標的行動として指導を行うこととした。

- ・なお、用途や汎用性の高さから「かして」から「ちょうだい」に変更した。

指導目標

おもちゃやパズルのピースが欲しいときに「ちょうだい」と言うことができる。

指導の手続き

- ①おもちゃを手の届かない場所に置く。
- ②「ちょうだい」と書かれたプロンプトのカードを提示し、言うよう促す。指導初期は音声プロンプトも行う。徐々にフェーディングしていく。
- ③言うことができたならおもちゃやパズルのピースを手渡し、賞賛する。
- ④この手続きを機会に応じて繰り返す。

環境設定



プロンプトカード



パズル



手の届かない場所に置いたおもちゃ

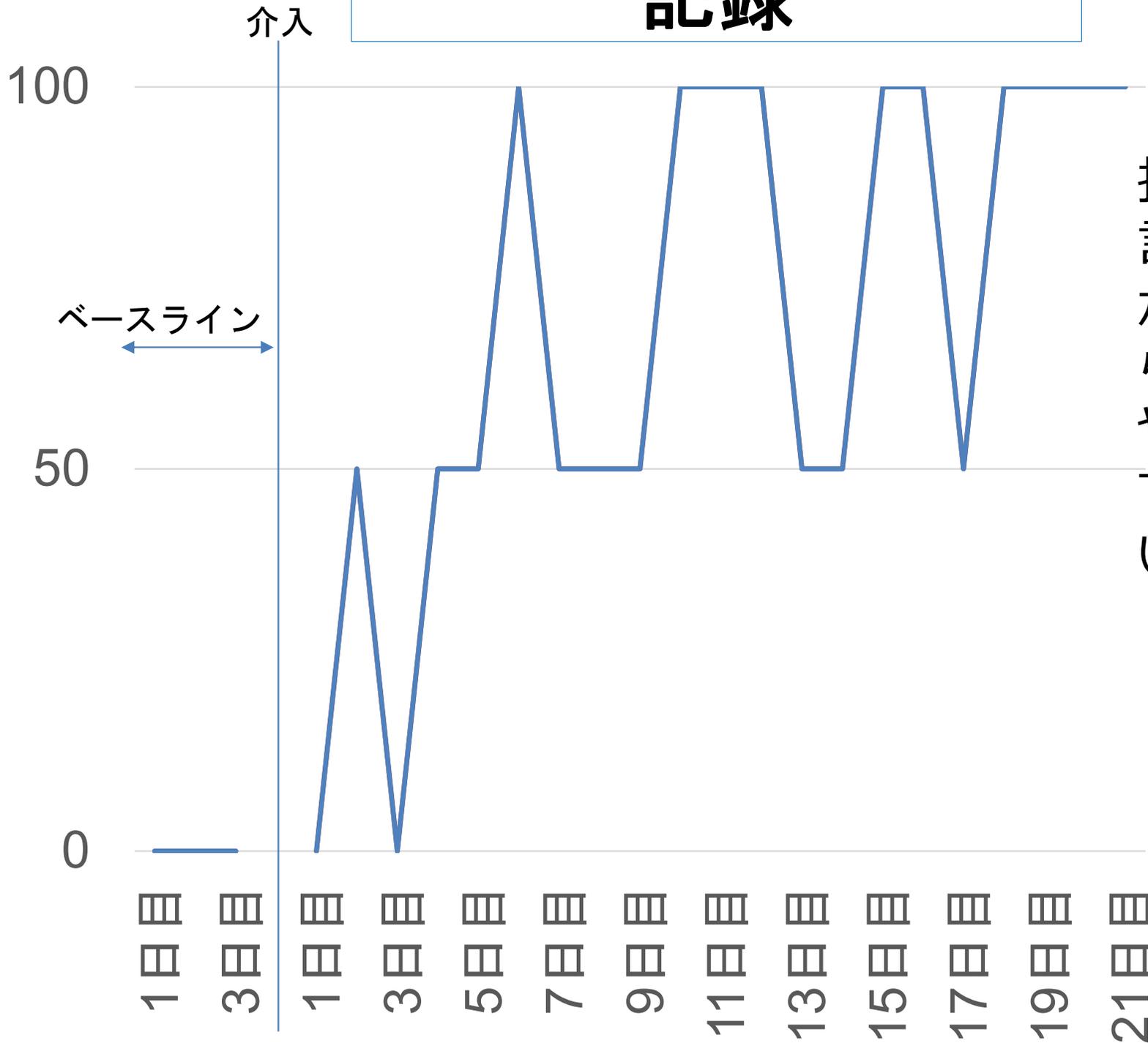


おもちゃ
(一例)

記録方法

指導目標	おもちゃ等が欲しいときに「ちょうだい」と言うことができる。
+	自発的に「ちょうだい」と言うことができた。
P	プロンプトカードの文字や、語頭を聞いて「ちょうだい」と言うことができた。
—	「ちょうだい」と言うことができなかった。 全ての文字に音声プロンプトを必要とした。

記録



指導前は、要求言語はなく、棚から取ってもらったおもちゃやピースを無言で取ろうとしていた。

指導の成果

- ・「ちょうだい」の文字を読んだり、音声プロンプトで言えたりする回数が増えた。徐々に発語プロンプトカードの文字の指さしのみに移行し、おもちゃやピースを見せるだけでも1文字ずつではあるが、言うことができた。
- ・設定された場面以外でも、ボールが欲しい、水筒が欲しい、ヒモが欲しい等様々な場面で「ちょうだい」と言うことができた。
- ・家庭にも「ちょうだい」カードを持ち帰ってもらい、何度かカードなしでも言えることができた。

ここが成功のポイント

- ・「ちょうだい」ということで目の前にある欲しいおもちゃやピースがすぐに手に入ることが本児に理解しやすかった。
- ・遊びと対面学習等の場面で定期的に取り組むことができたことに加え、「ちょうだい」という汎用性の高い言葉であったため、1日に複数回の学習をすることができた。

今後の展開としてアドバイザーからの助言

- ・「ちょ・う・だ・い」と1文字ずつ区切って言っているのに、言えたときに「『ちょうだい』言えたね！」等、より流暢に真似して言うことができるように、音同士が繋がったなめらかな言い方で返してあげる。

- ・2語文の練習として、かたはめパズルで形が独立しているものを使用し、「もも ちょうだい」「バナナ ちょうだい」等で練習することができる。

〈2語文に発展の前段階として、言える単語を増やすために…〉

- ・平仮名をある程度読むことができ、好きそうなので、文字を使って単語を教えることもできる。

例1：モノと文字のマッチング

例2：フラッシュカードのように、はじめに文字、読めたら裏返してイラストを見せて覚える。各回3～5単語で行い、そのうち知っている単語も1～2枚入れる。

今後の展開としてアドバイザーからの助言

〈「ちょうだい」の次に指導する言葉として…〉

- ・「てつだって」は分かりづらい。「あけて」は分かりやすい。動詞は混ざりやすく、覚えた「ちょうだい」と混ざる可能性があるため、指導する場合は、場面と教材を変えることが大切。
「ねーねー」「せんせい」等、人を呼ぶ言葉も分かりやすい。言うことができたなら「『せんせい』だね。呼べたね。」等とほめる。
段階的に取り組み、行動を連続させる。
例：（１段階）パズルのピースを瓶に入れて渡す。「あけて」と言うことができたなら、ピースを見せる。「ちょうだい」と言えたらピースを渡す。（２段階）後ろを向いた教員に「せんせい」と呼びかける。パズルのピースを瓶に入れて渡す。「あけて」と言うことができたなら、ピースを見せる。「ちょうだい」と言えたらピースを渡す。